

6 月 12 日 : 小売、食品、魚介加工セクターが牽引し続伸

月曜日にも先週からの強気な姿勢を引継ぎ、小売、食品・飲料、魚介類加工セクターを中心に買われ続伸した。

ホーチミン取引所では、VN 指数は 0.77% 上昇し 1,116.02 ポイントで引けた。一方、ハノイ取引所の HNX 指数は 0.78% 上昇し 229.37 ポイントで引けた。

市場は全体的に強気な姿勢が支配し、371 銘柄が上昇、213 銘柄が下落、212 銘柄が変わらずだった。

ホーチミン市場の時価総額と流動性の大きい 30 銘柄で構成する VN30 指数は、23 銘柄が上昇、5 銘柄が下落、2 銘柄が変わらずだった。

流動性は金曜日から減少したものの、両市場で出来高は 9 億 35 百万株、売買代金は 17.4 兆ドン（約 7 億 38 百万ドル）と高水準を維持した。

セクター別では、食品・飲料、魚介類加工セクターが平均で 2% 超上昇し、相場を牽引した。

小売では FPT デジタル・リテール(FRT)が制限値幅いっぱいの 62,100 ドン (+7%) まで買われ、3 百万株の出来高を伴って 3 月中旬以来の高値を付けた。5 月以来、同銘柄は 16% 超上昇している。

他の銘柄では、デジワールド(DGW)が 41,000 ドンの値幅制限まで買われ、月間で 43% の上昇となった。またモバイルワールド (MWG) も 3.9% 上昇し 43,000 ドンを付け、過去 2 週間で 15% 上昇した。

小売株の上昇は、第 2 四半期の決算に対する投資家の期待と、株価が比較的割安であることを反映している。第 1 四半期は、モバイルワールド (MWG) の純利益が 210 億ドンと上場以来の最低水準にとどまるなど、小売業にとって厳しい結果となった。また FRT も 2000 年以來の業績不振となる 50 億ドンの損失を計上していた。

しかしながら、小売業の収益は反発が予想される。国家統計局（GSO）のデータによると、5月の小売売上高は2,530兆ドンに達し、前年同期比+12.6%で2015年以来の伸び率となっている。

食品・飲料セクターでは、マサン・グループ(MSN)、ビナミルク(VNM)、サイゴンビール(SAB)が2.5%~3.2%の上昇となった。

魚介類加工セクターでは、IDI インターナショナル(IDI)、ビンホアン(VHC)、クーロンフイッシュ(ACL)、サオタフード(FMC)が1.6%~3.5%上昇した。

外国人投資家は両取引所で買越したが、買越額は880億ドンと低水準だった。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。